

BULK CHEMICALS

株式会社 バルクケミカルズ・ジャパン

2009 年 3 月 3 日作成 整理番号 001

製品データ情報

バルククリーナー BK842

(スプレー／浸漬用)

A. 特 長

バルククリーナーBK842 は、洗浄性がよい液体タイプのアルカリ性クリーナーです。鋼材、亜鉛、アルミの表面洗浄に適し、また発泡性を低減した製品ですので、スプレーラインにも適用可能です。

B. 使用方法概要

1. 薬品濃度

処理液 100 ㍺のつき、BK842 を 1.0 ～ 5.0 ㍺加えます。

処理槽に 8 分程度希釈水を入れてから BK842 を加えて攪拌し、最後に希釈水を標準液面まで補充して処理液を完成させます。

2. コントロールポイント

バルククリーナー滴定： 3.5 ～ 18.2 ml

温度： 45 ～ 80 °C

スプレー時間： 30 秒 ～ 1 分

浸漬時間： 2 ～ 5 分

ノズル圧： 1.1 ～ 1.4 kgf/cm²

注) 滴定の詳細については C 項を参照。運用上の注意点については D 項を参照。

C. 処理液管理

バルククリーナー842 処理液は、当社の滴定セット 842 用または同等品を用いて、工場内にて滴定を行うことにより管理してください。

バルククリーナー滴定方法

- 1) ピペットで処理浴サンプル 10ml を三角フラスコに採ります。
- 2) 100ml の蒸留水を加え、指示薬「フェノールフタレイン」を 4～6 滴加えて攪拌します。
- 3) 試薬「0.1N 塩酸」をビューレットに注ぎます。

BULK CHEMICALS

株式会社 バルクケミカルズ・ジャパン

- 4) フラスコを緩やかにかき混ぜながら、ピンク色が消えるまで試薬をゆっくり加えます。
- 5) この時の試薬の使用量 (ml) を記録します。

補 充： 滴定値を 1ml 上昇させるには、処理液 100 ㍺につき BK842 を 0.4 ㍺加えます。あらかじめ設定した濃度での脱脂性能を保つには、設定値から±0.5ml 程度の範囲内で滴定値を管理することをお勧めします。(B 項-2 を参照)

注) 処理槽の一部を廃棄または漏洩した場合には、初期設定と同じ割合の薬品と希釈水を加えて、元の容量へ戻してください。

D. 運用上の注意点

1. ここに説明している初期の管理ポイントおよび補給用データは、ほとんどの設備に対応する標準的なものです。しかしながら、特別な条件によって処理する必要がある場合には、これとは異なる方法の適用も考えられます。その際は、当社技術スタッフにご相談ください。
2. 処理材が過度に汚れており脱脂性能の強化が必要な場合は、バルクソル（クリーナー添加剤）のご使用をお勧めします。当社技術スタッフが、最適なバルクソルを選択いたします。
3. 油分の中には処理液を過度に発泡させる原因となるものがあります。バルククリーナー BK842 は発泡性を低減した製品ですが、もし処理液が過度に発泡する場合には、バルクディフォーマー添加剤のご使用をお勧めします。当社技術スタッフが、最適なバルクディフォーマーを選択いたします。

E. 設備に関する注意点

バルククリーナーが使用される設備（処理槽・シャワーブース等）には、軟鋼製をご使用ください。